

## 事例紹介（パネルディスカッション）：労働者協同組合の設立事例

- 労働者協同組合フラヌイスコーレ
- 労働者協同組合キフクト
- 労働者協同組合上田

### （コーディネーター・藤井）

皆様こんにちは。只今ご紹介いただきました、ワーカーズコレクティブネットワークジャパンの藤井と申します。それではさっそくパネルディスカッションを進めていきたいと思っております。今日のパネルディスカッションは、すでに労働者協同組合を設立、活動されているお三方から取り組み事例についてご紹介いただきます。

オンライン、会場参加も含めて参加者の七割の方が、初めてこのフォーラムに参加したと聞いております。初めての方にもこの労働者協同組合が身近に感じ、活用のイメージができるよう、ディスカッションを膨らませていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

では、お話を始めるにあたり、登壇の皆様のご紹介、それからコメンテーターのご紹介をします。コメンテーターの小島さんからよろしく願います。

### （コメンテーター・小島）

日本総合研究所、創発戦略センターの小島明子と申します。私自身は労働者協同組合法施行前から、この協同労働という働き方に大変関心を持たせていただいて、協同労働を実現しておられる団体様の調査研究を行ってまいりました。

労働者協同組合法施行後は、実際に現地にお伺いさせていただいて、複数の労働者協同組合のヒアリング調査などをさせていただいております。本日はより多くの方に、この労働者協同組合をまず知っていただくために、パネリストの皆様のお話をお伺いさせていただきながら、今まで私自身がヒアリング調査等で得られた気付きや、視点なども交えてコメントをさせていただければと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

### （コーディネーター・藤井）

続きまして今日事例紹介をしていただくお三方の紹介を簡単にさせていただきたいと思っております。

- 「労働者協同組合フラヌイスコーレ」の松下寿美枝さん
- 「労働者協同組合キフクト」の佐藤光弘さん、島田文枝さん

●「労働者協同組合上田」の北澤孝雄さんです。

大変短い時間で恐縮ではございますが、各団体から発表をしていただきます。まずは労働者協同組合フラヌイSCOREの松下さん、よろしくお願いします。

#### (フラヌイSCORE・松下)

皆様こんにちは。北海道富良野市から参りました、労働者協同組合フラヌイSCORE代表を務めております、松下寿美枝と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私達は昨年10月に設立をいたしました。事業内容としては不登校の子ども達を支援するフリースクールという形です。対話、学び、遊び、仕事の4つの活動を通じて、子ども達すべての幸せが保証される地域社会を目指し、それにより全世代の幸せを実現する、そういったことをテーマに掲げています。実際立ち上げたのは10月になるのですが、事業を実施するのは今年4月からということになっています。

私達の活動を図解すると、こういった形になっています。子ども達の居場所を作っていくということなのですが、その中に学び、遊び、対話、そして仕事、そういったことを結び付けていけるような場所を作っていきたいと考えています。活動内容は不登校や、学校になじめない子ども達やその保護者、そして、この写真のメンバー4人が中心になって今、活動をしています。学習や生活支援を行うこと、保護者の子育て相談や教育相談も受けていきたいと思っています。

私達のフラヌイSCOREができる前の段階において、現活動に繋がる場があったことを先にお話しさせていただきたいと思います。

最初に、「フラヌイコロ」という団体がコロナの頃にできました。「みんなの学校」という映画の上映会をすることをきっかけに集まった仲間達なのですが、その時の活動がすごく楽しくて、「映画の上映だけで終わってしまうのはもったいないから、皆で何かやろう」となり、それぞれが得意なことを教えあって学びあうような寺子屋とか、こういった企画をやりたい、皆で企画を立ち上げていくといった活動をしていました。

これが活動の様子なのですが、「フラヌイコロ」の活動を通じての出会いや、つながりがたくさん生まれてきました。「フラヌイコロ」のメンバー同士だけではなく、そのほかの人達との繋がりもどんどん増えていきました。

そうした中で、子どもが不登校で悩んでいるお母さんであったりとか、(子どもを取り巻く)環境のことに関心がある若者がいたりとか、障害のある子どもを育てているお母さんがいたりとか、色々な人と繋がりたい方がいたり、そうした人達と繋がってきたことが、

今のフラヌイスコーレの活動に繋がっています。

フラヌイスコーレを立ち上げたきっかけですが、富良野市では学校以外の不登校の支援として、適応指導教室も行政として行ってくれています。ただ、ほかの民間の支援団体はありません。なので、学校へ行かないとなると、選択肢は適応指導教室か、自宅にいるか、そういった形になってしまうのですが、そこに行けない子どももいる。そうした中で、あるお母さんが、「もう学校に行かなくていいから、外に出て家族以外の人と話せる場はないだろうか」そういった声を私の方にかけてくれました。

全国的に不登校の子ども達のことは、話題にならない日は無いと思いますが、子ども自身も学習、学びの不安があったりとか、学校に行けていない分、自分の進学、就職、将来に向けての不安があったり、コミュニケーションが難しくて孤立していたりとか。保護者も自分の子どものことをどこに相談したらいいか分からない、また、どう見守っていいのかも分からない。そして、子どもを家に一人で留守番させるわけにはいかないから、自分の仕事を減らさなきゃいけない。「自分の子どもはどうなるのだろう」そういった困りごとを抱えていることも見えてきました。そして、同じように学校の先生達も、仕事が今非常に多忙で、一人ひとりの子に丁寧に接したくてもなかなかできない。そういった悩みを聞くことが増えてきました。

そうした中で、何年も前から「子ども達の居場所づくりができないか」ということを市に掛けあっていた時もあったのですが、「前例がないものに予算を付けることはできない」「新しいことをするというのはやはり前例が必要だ」と前例を言われるのですね。「前例を作るにはどれくらい必要なんですか」と聞いたときに、三年から五年と言われました。例えば、小学校三年の子どもが三年経ったらもう卒業しちゃうんですね。じゃあその三年間、子ども達の今は誰が保証してくれるのか、だれがサポートしてくれるのか、そういったことを考えたときに、子ども達の今を大事にできるような何かができないか、もうそれは誰かの力を借りるんじゃなくて、気付いた人がやるしかない、そう思って、私達は地域の会館を借りて、遊びを通じてコミュニケーションをとることから始めていきました。

これが学習支援の様子です。当時は拠点を持たないボランティアでしたので、こうした活動をしていました。企画としては、夏のキャンプを行い、去年の12月は冬のキャンプも行いました。なぜ労働者協同組合を選んだのかという所では、私自身もこうしたフォーラムを何回かこれまでも聞かせてもらったり、ワーカーズコープの方の話の聞いたりする中で、「意見反映ができるということが非常に魅力的だな」と思っていました。それで私達は「フラヌイコロ」の時から「ダイアログの原理」という、対話をするということを中心にしていまして、仕事、活動をしていく中で、対話を大事にした取り組みをしていきたいということを、仲間内でよく話しています。

困っている子ども達や困っている保護者の方達、そして先生達が本当に笑顔になる、そのために組合を立ち上げることで新しい仕事で作れる。今の制度ではどうしてもセーフティネットの網からこぼれてしまう。「本当にどうしたらいいんだろう」というところをアプローチできる柔軟な体制作りや、柔軟な対応ができる。それが魅力だなと思っています。また、そういったサポートを「自分ができる時に（無理なく）したい」と思ってくれている人達もいるので自分らしく働ける、そんな取り組みがしていけたらと思っていました。そして意見反映の権利があるということは、メンバー同士が上下関係ではない、やらされるとかではなくて、自分が自らやりたいと思える、そういった形で仕事にしていけたらいいなと思っています。

子ども達が多様なので、支援内容も非常に多様なことを求められている、というのが私の実感ですが、一人で考えるのではなく、皆で知恵を出し合う中で、失敗もすれば成功もして色々なことがあるけど、知恵を出し合いながら様々な解決方法を見つけていける、そして少しずつ笑顔を増やしていける、そんな取り組みが労働者協同組合フラヌイSCOREを作ることで実現していけるとと思っています。

これまでは出来ることをボランティアでやってきました。先ほど写真で見ただいたような学習支援も、全部ボランティアで会場を借りて行っていたのですが、相談されることも多かったり、「こんな子が困っているよ」と聞くことも多く、継続していくことを考えた時に、「ボランティアだけでやっていたら続かないな」と思ったんですね。それで、組織化をすることにしました。こうしたセミナーで全国の事例を聞いて、様々な方達が地域の困りごとを自分達の手で解決していく取り組みに、私自身も興味がありましたし、一緒にセミナーを聞いた仲間達と一緒に「身近に困っている人がいるなら皆で作ろう」ということになりました。

様々な課題がある中で、代表的な課題を載せてみました。今、私達は拠点はあるのですが資金が無い、という団体なので、この事を(仲間内で)話した時に「仕事としては手伝えない」「副業ができないから手伝えないけど、何かしたい」という人達が、「フリマ部を作るわ」と。そのフリマで活動した資金を「フラヌイSCOREで使ってね」と助けてくれています。そうした形で多くの人を力を使いながら今進んでいる所ですが、仲間と共に色々なことを考えながら仕事をしていけるというのは、非常に自分自身にも返ってくるものが大きいなと今感じている所です。以上です。

#### (コーディネーター・藤井)

ありがとうございます。全国に広がる待った無しの不登校の問題に対して、労働者協同組合を活用して子どもの不安や親の不安に寄り添い、取り組んでいるという様子が短い時

間でしたが、皆さんに伝わったと思います。熱い思いは後程ディスカッションで広げていただくということで。

続きまして労働者協同組合キフクトから佐藤さんと島田さんに報告をいただきます。

(佐藤)

こんにちは。キフクトの佐藤と申します。こちらの島田と今日、2人で来ました。パネルディスカッションの時はマイクを奪い合うようにして2人で話をしたいと思います。最初の事例紹介は私の方からさせていただきます。

私は幼少の頃、川越で育ちました。埼玉県出身ですのでよろしくお願いいたします。

今日は組織の概要をお話した後、なぜ労働者協同組合を作ったか、それから今10か月ですが、見えてきた課題とその対応という所をお話していきます。

現在7名でやっております。設立時5名だったので2名増えました。年間の売上高は3月末までの見込みですが、300万円。事業は造園、緑化をしております。

設立は昨年4月。仕事は個人が所有する住宅の庭を作ったり、手入れをしたり、ということをやっているのですが、私有された土地だけではなくて、できれば誰もがアクセスできる場所の自然にも関わっていきたいということもあって、今少しずつ動いている所でございます。

メンバーは結構色々で、全員造園とかのスペシャリストではなくて、隣の島田はガーデンデザイナーですが、鍛冶(鉄)をやる職人がいたり、他にフルタイムで働いていて、副業でここに入っている方であったり、個人事業で自分で屋号を持って仕事をやりながらこの活動をしていたり、色々なタイプの人間が集まっています。

設立の背景です。大きく2つあって、1つは社会的なこと、もう1つは個人的なこと。どちらかと言えば個人的なことが大きいのですが、社会的なことは今更私が言うことでもないのですが、いわゆる資本主義の経済システムであるとか、その先鋭化した新自由主義みたいなことの行き詰まり、それに対して先ほどのつくば市長の話にもあった社会連帯経済とか「そういったものが処方箋になる可能性があるのではないか」と考えたというのがあります。

私は個人事業で造園を長くやっています、来年仕事があるかわからない、ケガや病気をしたらとか、そういう不安は常に抱えています。会社員として働いていた時もありましたが、会社の看板があるからできることもあり、それはそれで楽しいのですが、上からの命令という理由の1点だけで、やりたくないこともやらなければならない、そういう不自由さもありますよね。個人の不安定さと組織に入って働く不自由さを、うまいことできないかということで、職場をもう1度共同体として編むということを考えました。そこで労働

者協同組合という法人の在り方、可能性を感じたということです。

今日は課題を3つお話しさせていただきますが、フラヌイスコールさんのように切実な課題があって、それを掬い上げようとして労働者協同組合を作った訳ではなく、すでに造園会社とか個人でやっている方がいる市場の中に名乗りを上げたので、どうやって仕事を作っていくか、誰にも必要とされていないところに勝手に立ち上がったので、そこを何とかするというのが課題です。

ポイントとなるのは法律第1条にある地域社会というところ。私が住んでいる神奈川県は地域コミュニティがうまく進んでいるところばかりではないので、広く捉えると、例えば協同組合であるとか、協同労働的な働き方をしている色々な組織であるとか自治体も含めてネットワークを編んで、1つの地域社会と考えるとか。それから、顧客ともサービスとお金のやりとりだけでなく、人間同士の関係を築き、そういった方々もネットワークの網の目に加え、その中で仕事を作っていくというのが労働者協同組合らしいやり方ではないかと考えています。

その大前提として、労働者協同組合らしい何かを提供する事が重要なというので、画面の右に書いてある、特に下の2つです。

中央集権的でない庭造りは、通常の庭とか緑地管理は人間が計画を立て、その庭の生き物を生かすのか、排除をするのかを全て決めますが、そうではなく、先ほどの藤原先生のお話にもありました、雑草だとか、害虫にカテゴライズされる生き物たちにも、彼らなりのやり方があってそこに居るわけなので、人間もその一員として、何とか折り合いをつけながらやっていく造園のスタイルというのを提供できればと思っています。それから、お客さんに対して何かをする事を、顧客サービスの充実のようなビジネスの範疇の中で考えるのではなく、仕事は仕事とせず、人間同士なのだからついでにできることは親切にやりましょうよと、という話です。そういうことを通じて編んでいくお客さんとのネットワークとか、そういったものを我々らしいやり方として提供できればと思っています。

それから、労働者協同組合を作る理由にもなっていますが「個人として自由に楽しく働くことと、組織としてやっていくことを両立させるのは、労働者協同組合を作るにあたってどの団体も課題になるのかな」と思います。

私の場合(イメージするのは)、カリブの海賊ですね。17, 8世紀ぐらいに活躍した海賊たちを1つモデルにしています。単に遊んでいる訳ではなく、海賊を調べていくと、1人1個の議決権を持っていて、船長が気に入らなければ投票して船長をクビにする事をやったり、略奪した金品の分配に関しても平等というか、船長が多めに貰うけれど、船員に酒を

奢ったりする、といった出費があるので、ほぼ平等であったりします。

私は労働者協同組合に近いシステムがあったのではと思っています。また、その海賊達は、先ほど藤原先生がおっしゃっていた狭い意味の労働というのは拒否している訳ですね。一生懸命略奪してお金を稼ごうとはしておらず、できるだけ働かないでいたい、というところでやっているのです。

ただ、そのまま（海賊が）労働者協同組合を作ってしまうと、持続可能な活力ある地域のために、そういう正しさのために、自分達を縛り付けてしまうリスクはあるので「所詮海賊じゃないか、悪人凡夫の類だろう」というマインドセットでやったほうが自分達を厳しくし過ぎてしまったり、それ故に辛くなってしまう、ということ避けられるのではないかと。プラグマティックな、実用的なモデルと思っていますが、これは色々なモデルの在り方があると思っています。

最後ですが、多様なメンバーが集まっているので、意見をまとめるのは中々大変というのが、やってみて分かったことです。一番良いのは「先送りするのがいいな」というのが結論です。「もう結論を出さないでまた話し合おうよ」と。ただ、相手があることや、どうしても決めて進まなきゃいけないことがあるので、それらの対応策として今やっているのは、「あなたは工事部だから工事担当ね」「あなたは経理部だから経理担当ね」と分けるのではなく、例えば1つのプロジェクトが立ち上がった時にやりたい人を募って、「やります」と言った3人が集まって「パンフレット作ります」と。それを全体ミーティングに挙げて、皆で話し合っただけで承認されれば進める。されなければ差し戻しみたいなのもやってもいいのではとも思っていますが、ただ、色々なメンバーがいる中で物事を決める時に「多数決は取らない」と思っているの、そうじゃない方法(多数決を取らないルール)であれば、プロジェクトチームを作ってやるのが良い方法と思い、今やっているところです。

#### (コーディネーター・藤井)

ありがとうございました。今日のオンラインの参加者の中にはフリーランスの方も多くいまして、キクフトの多彩な人々、個人事業主の方、資格を持った方が集まって1つの仕事をすることの「最後の意見をまとめるのが大変だ」というのは、それぞれのやり方でやってきた人達が集まるので、それぞれの主張が強くある中で当然、さらに自由な労働、働きというものを、共同体としてもう1度編み直す取り組みというのは本当に労働者協同組合ならではとお聞きしました。後でその部分も掘り下げて聞いてみたいと思います。続きまして労働者協同組合上田の北澤孝雄さん、よろしくお願ひします。

#### (上田・北澤)

皆さんこんにちは。最初に、私達の自己紹介をさせてもらいたいと思います。

通称、「労協うえだ」と言っています。設立は昨年3月24日に法人登記をいたしました。出資金は現在31万円にして、1口2,000円、2口以上を加入時に出していただくという形で運営しています。組合員は現在8名です。男性6名女性2名。構成はこの表にある通り、70代は私1人です。60代が4名、50代が1名、それから40代が女性で、2人おられます。

現在2期目の活動中です。

私たちの活動スローガンなのですが、「こんな時代だからこそ、新しい働き方でこれまでの経験と趣味や資格を生かした仕事づくりをいっしょにしませんか」です。私達の大きな目標は、そこ(資料に)に出ている通りですが、地域社会生活の中にもう1つの新しい歯車を作りたい、それは60代から70代の元気なシニア層が地域の守り手として、地域の困りごとを解決し、その仕事で活躍する。そういった新しい地域社会の仕組みを作っていきたいと思っています。

次に活動のきっかけです。それは、労働者協同組合法が成立したとの情報を知ったことです。その頃、私は年齢的にも厳しいかなと思いながらも、自分に合った、働き甲斐が感じられる仕事を探して、求人を見たり、ハローワークに通ってみたりしていた時期でした。当然、そんな都合のいい仕事には巡り合いませんでした。

そうした時に自らが出資をして、皆で仕事を作り、自ら働き、皆で配分するという新しい働き方を知りました。「この際、自分が動けるうちに地元で取り組んでみよう」と感じまして、勇気を出してワーカーズコープ上田事業所に訪問しました。

私は引っ込み思案で、隣の人に声をかけることが大変苦手なのですが、この日をきっかけに、今までの自分を変えることを心がけようとしていました。やはり勇気を出して外に出てみることです。私が今、ここで話をしていることが不思議なくらいです。

ここまでの取り組みが出来てきて、全てがその日から始まった、と言っても過言ではありません。なぜなら、今一緒に活動している仲間の皆さんは、この日以降巡り合った人達からです。私達はワーカーズ上田地域応援隊の活動を始めてから今年で丁度4年に入り、さらに昨年3月に、労働者協同組合上田を立ち上げました。それは少子高齢化のまっただ中で、後継者問題、重くのしかかる年金、社会保障、福祉問題、地域の空き家、農地の荒廃など、解決の方向性すら見いだせないというのが現状ではないでしょうか。

そんな中で(労協うえだを立ち上げようと思ったのは)労働者協同組合法がこの現状を解決する方法だと思ったからです。

私達の考え方を、ここの資料にあるように書きました。

高齢者の仲間達による高齢者同士の助け合いが、問題解決の糸口になるのではないか、身近な相談ごとを地域に住む身近な高齢者達が仕事仲間としてお手伝いする仕組みです。ま



まだまだ元気な高齢者達の潜在的な労働力を生かしていく、そういった活躍の場を設けたいと考えています。経験豊富な高齢者達が楽しく生き生きと働きながら、自らの存在感が地域で感じられる、そんな生き方の提案です。

現在の組織図です。最初に作ったのがワーカーズ上田地域応援隊、昨年立ち上げたものが労協うえだ。この2つの組織を連動させながら活動をしています。

この労協うえだは、一昨年までは営繕事業を中心に営繕チームというのをワーカーズ上田地域応援隊の中で取り組んできました。その中で「これは事業性があるな」と考えまして、この営繕チームを労協うえだが担うこととして、法人化しました。

労協うえだで活動した場合は、必ず時給 1,000 円以上を出すことを原則にしています。その時給が出せない事業は、ワーカーズ上田地域応援隊の中で地域活動として取り組んでいます。この後触れますが、地域の行政や団体との連携づくりが欠かせないと私は考えておりまして、この中心に学習会・人材育成を基本に置き、取り組みをしようとしています。

こちらの（写真）、法人化した翌々月、4月か5月でしょうか。地元の自治会の方から相談を頂きまして、受注した最初の屋根の塗装工事の写真です。このお宅は、高齢者の1人世帯でして、お子さん達は既に県外で生活していて。「子ども達は家に帰ってくる予定はないが、自分が生活できる程度には手入れをしておきたい」と。「主人が元気な頃にやってくれていた日曜大工程度の仕事でいいので、身近に安心して頼める人がいないか」という相談をその方から受けまして。その方は実は私の知人でした。この依頼を引き受けることにしまして、施工後、依頼者さんからは「思っていたよりきれいにできた」と言われまして、ここで少し自信が出たかなと思っています。

その後、昨年7月に上田市内に10か所の地域包括支援センターが開設され、こちらの写真は、その生活支援コーディネーターの皆さんと、勉強会と交流会をやった時の風景です。この時の共通課題は「どのようにして地域の身近な困りごとを回避していくのか」が共通の課題でしたので「今こそ私たち労協うえだの出番だ」と感じました。次の写真は、同じ包括支援センターの1つですが、その職員の方から「12月に住みやすい地域づくりを考える会に、労協うえだの活動を報告しないか」と声を掛けられまして。地区の民生委員さん、それから薬局、薬剤師さん、ケアマネージャーさんはじめ社会福祉協議会、まちづくり協議会や地域のデイサービスの施設の職員の皆さん等、50名ほどが出席し、グループワークも行い「これからの地域づくりには欠かせない取り組みだ」と評価をいただきました。改めてこの取り組みをしながら、「仲間を増やして仕事ができる体制を早期に作らないといけないな」と痛感しました。

次の資料です。活動を進めるにあたって重要に考えていることがあります。それは、地域と行政との連携、協力支援の体制と仕組み作りが、欠かせない仕組みだと考えています。

私達の仕事づくりは、必ず地域の人達との協力と、行政との連携が欠かせない仕組みです。そこで、現在取り組んでいるのが、先ほどお話した地域包括支援センターとの協力と、連携する体制作りです。その取り組みをしないと、私共の地域の問題を解決する仕組みがでないと思っております。

最後のまとめです。私が今感じていることは、定年を過ぎた後、人生 100 年時代ですから、結構長いです。私は定年後、そんなに深く考えていなかったのですが、いざ定年になると「その時間をどう過ごすか、これから 30 年どう生きるか」ということを痛感しました。改めて長寿社会の時代にふさわしい生き方、過ごし方を今提案したいと思っています。先ほども言った通り、60 代から 70 代の元気なシニア層が地域の守り手として地域の困りごとを解決する、担い手として活躍する、そんな新しい地域社会の仕組みと、新しい生活スタイルを地域に作っていこうという提案です。具体的には労協法を活かした新しい働き方で、持続可能で、皆が元気に楽しく生きる地域社会を作っていきたいと思っています。以上で終わります。ありがとうございました。

#### **(コーディネーター・藤井)**

北澤さんありがとうございました。「自分達の人生経験や資格といったものを生かしていこう」と始めた労働者協同組合が、人材育成という勉強までして、そして最後に自分達の新しい生活スタイルをという、引っ込み思案だった北澤さんをこの場でお話するまでに変える労働者協同組合の面白さというか、2 期目を迎えた上田の新しい取り組み、お話しいただきました。

ここからディスカッションに入っていきます。まず、今日参加をしている皆さんにも伝えたいので、労働者協同組合という新しい法人格を選択した理由、思いというのを 1 人ずつお聞きしたいと思っております。フラヌイスコーレの松下さんから、「なぜこの労働者協同組合を選んだのか」という思いをお話しいただければと思います。

#### **(フラヌイスコーレ・松下)**

私達は一昨年からボランティアで、不登校の子ども達と関わることをできる範囲で続けてきましたけど、相談が増える中で、拠点を持たないボランティア活動だと、学校や行政からの信頼を得ることが非常に難しいということ、場所の確保ができない時もあり、色々な課題も見えてきた中で「行政が用意してくれているもの以外の多様な場があってもいいよね」という思いがあったので、皆で話し合いながらできる、この労働者協同組合を立ち上げました。

#### **(コーディネーター・藤井)**

地域での信頼を得ていくために、きちんと拠点を持ってということで労働者協同組合を選

ばれたということですね。キフクトの島田さん、佐藤さん、次をお願いします。

#### (キフクト・佐藤)

私は会社で働いていた時に「自分は仕事ができるんだ」と折に触れてアピールし続けなくてはいけないというプレッシャーを感じていて。労働者協同組合って任意加入が原則ですよ。つまり、入りたいと思う者がいたら全員入れるという場所であるということ。フリーランスの方も聞いていると思うのですが、フリーランスの方達が集まって協同組合を作る時も「スペシャルチーム、ドリームチームを作ってやる」というのは、ロマンがあるかもしれないですが、それではメンバーに入る一定の基準が存在してしまうことになると思うんです。ただ、労働者協同組合であれば誰でも入れる。

一昔前の会社は、そういう感じがあったと思うんです。年功序列が悪いこととは言われませんが、会社に入ったら一応一生面倒見てくれる状況があって、もの凄く必死に仕事をして成果を出さなくても、居場所があった。今の会社全部が、というわけではないですけど、そういった余裕が無くなっていく中で、もう少し必死で頑張らなくても居られる場所が労働の場にあってもいいと思う。「そういう場所を作るというのが労働者協同組合の役割の1つにあるのかな」と思って。要は自分が楽をしたいだけですけど、そういう場所を作ったということです。

#### (コーディネーター・藤井)

誰でも参加できる門戸の広さや、協同というキーワードをいただきました。次に上田の北澤さん、お願いします。

#### (上田・北澤)

先ほどのお話と重複しますが、私は定年になってからパートでケアの施設の送迎のお仕事を7年程しました。パートなのですが「送迎の仕事って非常に大事だよ」「患者さん、通う皆さんが安心して通うためには、安全運転をしなくてはいけないよ」ということを結構言われまして。期待されながら、楽しく、利用者さんに「ありがとう」と言われて働きました。その職場は70歳でまた2回目の定年になりました。「70歳以降でも元気なうちは働きたい」と思い、仕事を探したんですが、中々楽しく働く場所というのは無くて。迷っていた時に、ちょうど労協法ができたというのを聞きました。

労働者協同組合に一番期待したいことは、定年後の新しい働き方の選択肢に、労働者協同組合がなって欲しいと思っています。私共が経験したのは定年後の働く場所探しとして、ハローワークに行って「70歳以降も働く場所がありませんか」と聞くことや、求人情報、それからシルバー人材センターもあります。そういう方法はありますが、この新しい働き方で楽しく働いて「ありがとう」と言われるような、そういう場が中々無いのです。それ

を労働者協同組合で働いていく、という仕組みを社会の中に作っていきたい。5年後、10年後、20年後は、定年になったら地域の活動としてそこで働く、という人達が普通になるのではないか、そういったことができるのではないか、ということを期待して、取り組み始めました。

**(コーディネーター・藤井)**

ありがとうございます。既存の働き場ではなく、「働き甲斐や、楽しさや、生きがいに繋がる働き方が労働者協同組合の働き方じゃないか」と、社会の中にその仕組みを根差していきたいということを、上田から発信していただきました。それではコメンテーターの小島さん、コメントをよろしく申し上げます。

**(コメンテーター・小島)**

ありがとうございます。私も色々な団体様を調査させていただいて「どうして労働者協同組合を作られたのだろう」と思っていました。多分、そのきっかけは3つあって、すべての団体が共通している訳ではなく、1つだけでも当てはまるものですが、フラヌイスコーレ様のように「不登校とか学校に馴染めない子ども達のために仕事をしていきたい」という社会的課題に対して、何か解決をしていきたい、というのが1つ目です。

2つ目は、仲間が集まって「みんなで何か楽しい仕事をしたいよね」です。

3つ目は、働き甲斐というお話が北澤様からも出ましたが、私も、雇う、雇われないではない第三の働き方、という表現でお伝えすることがあり、主体的に働ける場として選択されている。大きくはこの3つがあるのだろうと思っています。

ただ、それは全ての団体様がその3つの理由を持っている訳ではなく、1つでもそういった思いがあれば立ち上げのきっかけになっている、と感じています。今日ご参加されている方の中には、初めて労働者協同組合を知るという方が多いと感じています。どなたでも「そういった思いって1つでも持っているのではないか」と思います。その思いがあれば、労働者協同組合に参画していただいたり、或いは設立していただく事もできますよ、という少し参画や設立へのハードルを下げるようなコメントをさせていただきました。

**(コーディネーター・藤井)**

ありがとうございました。お三方の取り組み、それから労働者協同組合を選択した理由や思いというものを、小島さんに更にまとめていただいて「どなたでも取り組みますよ」ということで、小さな困りごと、社会の課題解決、楽しく働こう、ということを労働者協同組合で一人でも多くの方が取り組んでいただけるような、質問とまとめをしていただきました。

次に、またお三方にお聞きしたいのですが、労働者協同組合を選択して今活動を進めていらっしゃるのですが、フラヌイスコーレさんはこれから進めていこう、というところですが、活動内容を先ほどお聞きしました。活動内容や、労働者協同組合という組織運営の中で、独自に取り組んでいることや、今後やろうとしていること、検討していることがあったらぜひお聞かせいただきたいと思います。順番を変えまして、労働者協同組合上田の北澤さんからすみません、よろしくお願いします。

### **(上田・北澤)**

先ほども報告をさせてもらいましたが、最初はワーカーズ上田地域応援隊という活動から始めました。その時始めたのは家庭菜園、それから営繕チームを作りました。

作った理由はただ1つ。「自分が得意とする分野でやろう」ということですね。そうでないとやっぱり楽しくないし、長続きしない、そのように感じまして。改めて定年後の働き方としては、自分の経験を活かして、それを活かしたことを、経験を活かしていくという働き方を作っていくことが非常に大事だと思っています。

私共の独自の取り組みとして、引き続き家庭菜園チームの運営、先ほど（資料を）飛ばしましたが、ソルガム栽培チームを去年から作りました。それから、竹林チームを作りました。「農地の再生と、その有効利用の取り組みをしようじゃないか」というのが私の得意分野でして、それで再生した農地に家庭菜園を作って地域の人に利用してもらう。再生した農地にソルガムという種を蒔いて、雑穀、収穫して給食に回すとか、とれた茎・葉は全て（土に）返していく、という脱炭素社会につながる取り組みでもあるんですね。そういうことに取り組んでいます。

竹林の方は、メンバーで1人関心の強い方がおり、その人がチームリーダーになって去年から始めました。来月第2回目の実演会をする予定です。今感じているのは、この得意な分野をやりながら、地域の課題解決へもアプローチしながら、私どもの活動を知ってもらい、仲間を増やしていく。そういった活動をしていくことが大事だなと。単に募集をして「お金を払うから集まってください」という募集の仕方ではなく、活動の趣旨を良く理解して参加をしてもらうことが大事だと思っています。そのためには、様々な活動を連動させながら仕事を作っていく、ということは今大事に考えています。

### **(コーディネーター・藤井)**

ありがとうございます。得意な分野でどんどんその事業を拡げて、それで大勢の人がまた参加をすればその人が持っている得意分野でさらに上田の事業も拡がるという、そういう展望が見えました。ありがとうございます。続いてフラヌイスコーレの松下さん、よろしくお願いします。

### (フラヌイSCORE・松下)

私たち、組織運営に関してはまだまだこれからで、課題がたくさんあるのですが、活動内容としては、フリースクールと言っているのですが、その頭に「地域ネットワーク型」というのをつけて言っています。それは富良野にある様々な社会教育の資源、富良野には「(富良野)演劇工場」もあつたりとか、「(富良野)自然塾」という自然もあつたり、水に関する活動をしているNPOがあつたりとか、色々あるのですが、そういった団体と協力しながら子どもたちを地域社会全体で育てていく、そういった活動づくりをしていきたいと思っています。それから地域全体が子どもたちの学びの場になったらいいなと思っているのですが、保護者のフォローというのも非常に大事だなと感じてきています。なので、そうした保護者のフォローも力を入れてやっていきたいという部分と、あとフリースクールというと結構、小学校、中学校というイメージなんですけど、私たちは働くということも目標というか目的の中に入れていきます。富良野で様々な体験をしていく中で、それが将来子どもたちの仕事につながっていけばいいなという大きな理想も描きながら、今活動をしている所です。富良野も少子化や仕事の担い手が不足していますが、富良野以外のどこの地域にもあると思うのですけれども、そういった所でもフラヌイSCOREとして地域の課題を解決することに何かつないでいけたらな、と今考えている所です。

### (コーディネーター・藤井)

ありがとうございます。10年、20年後を見据えてそのフリースクールに来る子どもたちが主体的に働くということを地域の人たちと連携しながら、これから作っていこうというお話でした。続きまして、キフクトの佐藤さんよろしいでしょうか。

### (キフクト・佐藤)

さっきのオープンな場であるという話ともかかわってくるのですけれども、我々は造園の仕事(現場)に行くと、日当とか分配金が発生するのですが、今それは経験とか技術とかに関わらず全員一律という形をとっています。それは一般的なやり方ではないですよ。

能力とか技術に対してきちんとその報酬を払うというのが平等だろうというのが今の常識だと思っております。そうでないやり方を取っている。というのは、今私は40半ばすぎたところで現場の経験もあって体もまだ動くのでそういう現場に出る身としては今いい状態にあるのですが、知識がない、技術がないという時代もあって、今日の前にもし技術がない若者がいたら、それは昨日の自分であるし、10年20年したら多分高い木には登れなくなるのですが、そういうこともあって結局どういう状況もいつか自分がなりうる、あるいは過去の自分だという風に考えれば、それほどこう、給料が同じというのはそんなにおかしいことではないだろうということを考えていると。それから現場の貢献の仕方は実はいろいろあって、例えば島田さんは非常に穏やかな人柄なので、僕なんかは仕事がうま

くっていないとピリピリイライラしてしまうのですが、非常に穏やかにニコニコ、黙々と仕事を進めてくれる人がいると、現場のパフォーマンスは絶対に上がるのですよね。それから今日ここにきているメンバーの一人は、お昼ご飯のお店を探すのが得意で、僕はお昼ご飯を探すのは嫌なので、今日はここに行こうぜ、と言われればすごく楽だったり。そういうことを全部評価基準に入れて平等な評価をしようというのは不可能なので、だったら評価はいったん諦めて、それはもう評価はしないで平等にやろうと。もちろんこれは異論も多分あって、それは不平等じゃないとか。あるいは若い人が技術が上がっていくのに給料が上がらないというのはモチベーションを壊すことになるかもしれないし、ずるい人が現場でタラタラ働いていても給料が一緒とか、そういう問題が起きないのですか？という疑問があると思うのですが、今のところ起きていないので、あとはそれぞれやってみてくださいとしか言えないのですが、今のところそれは問題なく進んでいるし、むしろ「あいつ、俺よりもらってるんだらうな」というようなことがないので、みんな一生懸命現場で働くということもあるので、これはこれでやり方としては面白いなという風に思っております。以上です。

#### (コーディネーター・藤井)

ありがとうございます。働く期間ずっと通して考えられたその賃金体系が、みな平等という考え方やその個人の特性を最大限発揮できるような平等性というものが少しうかがえたのと、やっぱりお互いを思いやりとか配慮しあうというのが、関係性の中で生まれてくるのかなというのが最後の言葉で感じました。ありがとうございます。今の組織運営、事業内容をお話いただきましたけれども、これについてコメンテーターの小島さんにちょっとコメントをいただきたいと思います。

#### (コメンテーター・小島)

ありがとうございます。皆さんいろいろな視点でご意見いただきましてありがとうございます。特に、先ほど北澤さんがおっしゃっていた、多様なスキルとか、経験を掛け合わせて新しい事業を起こしていくということが非常に印象的だなと思っています。実際、フリーランスの方も含めてですね、結構、労協を立ち上げておられるという方も増えてきていて、やっぱり一人として同じスキルを持っていないのだけれども、その方々が集まることによって今までやっていた本業とは全く別の事業を行っていらっしゃる団体さんもございます。今までにない新しい事業を多様な人材が集まることによって創り上げていくことができるのも、労働者協同組合の面白さなのかなという風に思っています。それに加えて、北澤さんは定年後の活躍とお話をされていたんですが、若い方であってもですね、労働者協同組合で新しい事業を作ることによって、副業でやっておられても、自分の本業にも還元をしていくという好循環も、キャリアの好循環を生み出していくことができるだろうなという風に感じております。少しキャリアという視点で補足をさせていただきました。

**(コーディネーター・藤井)**

ありがとうございました。この労働者協同組合の目的の中には、多様な就労の創出という言葉がありますけれども、多様な就労の創出が今の小島さんのお話だと、スキルの結集になって、それがさらに事業拡大であったり、様々な困りごとに対応できる労働者協同組合に育っていく要素なのかな、というのを今のお話と小島さんのコメントを聞いて感じました。

次に、これもお話の中で少し伺ったのですが、改めてお三方にこの協同労働という働き方、労働者協同組合を通じて今後実現していきたいということをお話しいただければ、さらに深掘りしてお話していただければという風に思います。これはフラヌイスコーレの松下さんからよろしくお願いします。

**(フラヌイスコーレ・松下)**

先ほどの話と重複するかもしれませんが、フラヌイスコーレではすべての子どもたちの幸せが保証されるような地域社会というのを目指していきたいと思っています。そのためにはこうした労働者協同組合のような、本当に多様な人たちが参加して、一緒に活動していくという環境を作っていく。そして、それを広げていくというのも必要かなと思っています。子どもたちの幸せを考えるとというのがすべての人の幸せを考えることにつながると思っていて、やっぱり子供たちに幸せになってもらいたい。でも、そのためには子供たちの近くにいる人たちにも幸せであってほしい。そうした働き方ができる1つの仕組みだと思っていますので、こうした労働者協同組合というのを私たちは今本当に少人数でやっていて、子どもたちの支援ということを中心にやっていますけれども、もっとこう、いろんな人たちが参加して、もうみんなでいい地域社会を作っていこうよ、という気運をつくっていければいいなと思っています。

**(コーディネーター・藤井)**

ありがとうございます。松下さんのお話しされる笑顔からも、富良野でおそらくいっぱい笑顔と子どもたちの幸せと、そしてその周囲にいる人たちも幸せになるというのが本当に想像できる笑顔だなという風に感じました。では次にキフクトの島田さん、よろしくお願いします。

**(キフクト・島田)**

よろしく申し上げます。突然私が入ってちょっとあれなんですけれども、私は個人事業主であり、キフクトもやっていて2足の草鞋でございまして、個人の方では庭造りの設計を15年間やってきていました。やっと自分の持ち味が分かってきて仕事も楽しくできるようになってきたという頃だったのですけれども、反面、自分だけでやることのちょっと孤独感だったり、努力し続けないといけないという競争社会の中のプレッシャーとか、あと苦



手なことが結構あるので、それによってちょっと自分の仕事がせっかく進んでいるのに止まってしまったりとか、そういうことも感じていました。そんな時に佐藤さんからこの組合の話聞きまして、まったく今までそういうことを考えてこない、そういう働き方を知らなかったのですけれども、もしかしたらこういう有能な人とか器用な人だけが生き残れる社会ではなくて、やっぱり安心してもっと楽しみながら働けるような場所を、自分もその中で作っていきける可能性があるというのは面白いなと思って設立メンバーに加わりました。そこで庭ってやっぱりちょっとクリエイティブだったり、設計とかって何でもいいわけでもなかったり、お客様の満足度もあるので、プロ集団でない集まりで、そういうお客様に求められて喜ばれる仕事がどこまで実現できるのだろうとか、給料が一緒ってどういうことだろうとかで、結構佐藤さんどんどん先をいって考えているので、私には考えが及ばないこともいろいろあったのですが、やっていって実際は本当にメンバーゼロからスタートしていくような感じで、私も佐藤さん以外知らない人たちと集まってやったので、もう本当に何を話すときにも共に働くって何だろうって、そこから頭に入れて考えないと話がもう全然、やっぱりあれなのでそういうみんなにとっての働きかたとか、一人だけ自分がああしたい、こうしたい、じゃない考え方をずっとしていくうちに、だんだんと、自分の、ここで何か役に立つということもできるし、反面自分も弱者でもあるというのに気づいて、そこで、ここだと結構、そういうすべてをさらけ出して、役に立てることと弱いところ、両方ひっくるめて受け入れてもらえる、そういう場所の働き方ができるのかなという実感がしています。

仕事面では、みんなが造園のプロではないのですが、生き方としては皆さん結構いろんな分野で経験とか実践を積まれていて、私は設計の方とかで経験はありますけれども、この仕事は環境とか生き物とか動物のことも考えてやっていこうよ、という庭造りをやっているんで、そういう意味では人生経験豊富な人の考えとか、そういうことで先輩から学ぶこともすごく多いですし、一人だったら実行までいってなかったなということも、結構、皆さんの気力でやっちゃおうと言って、環境にいいことをどんどん 1 つずつ小さいことですが取り組みもどんどん進んでいくので、そういうのは驚いていまして、協同労働というのはやはりプロ集団ではないけれども、みんながそうやって強みを活かしたり、弱みをさらけ出してやれる場所にしていくことで、働き方自体が、仕事の強みに、だんだん、キフクトならでの強みになっていくのかなという可能性を結構感じています。

あと、個人事業と組合の配分はこれから決めて、まだ決めてないのですが、自分としてはやっぱり設立時って収入も少ないですし、急に乗り換えたならもう多分そっちのことで経済的に回っていかないと焦ってしまったり、じっくりやっていかないといけない分、自分の収入とかやりたいことも実現できていることで結構余裕をもって、そっちの新しいことに取り組んでいるのかなと、そういう刺激とかバランスは、2足のわらじでやるメリットもあるかなと思っています。すみません、長くなりました。

(コーディネーター・藤井)

ありがとうございました。本当にこれまで一人で仕事をしてきた仕事のやり方と、仲間と一緒に進める仕事の間での葛藤ってというのはおそらくあったと思うんですけど、そうやって、プロ意識と、安心して楽しみながら働くっていうバランスも自分の中で取りながら、というのは、今島田さんからお話をいただきましたけれども、おそらくキクフトで集まっていらっしゃる皆さんがおそらく同じような思いで働きながら、さらにやっぱり協同労働の中で大事なお互いの弱みと強みを認め合って、またそれがその多様性でお互いのことを知って何でもさらけ出して助けてっていう時は「助けて」って言えたり、「助けるよ」って言えたりっていう、そういう関係性がこれからそのキクフトの強みにどんどん発展していくのだろうなっていうのは、今島田さんからのお話から伺いました。ありがとうございました。それでは労働者協同組合上田の北澤さん、よろしくをお願いします。

#### (上田・北澤)

はい、今質問されたテーマの中で一点だけ感じる点がありまして、定年になってからでは定年後の生き方を考えるなんてことは実は遅いです。私がまさにそうで、改めてこの取り組みをしてきて今痛感しておりますのは、定年前から定年後の生き方をとか働き方とか地域との関わりというのを学んで体験してくるような機会を作ることが大事だと思っています。今実は提案していますのは、ある地元の企業さんと提携しまして、定年前の二年くらい前からそういう機会を一緒になって作りましょうと。私たちが取り組んでいる困りごとの情報を共有したり、そういうところに一度研修としてでてもらうとか、そういう経験をしてもらいながら、定年後の自分の生き方を考えて、私たちも仲間に入ってもらおうというような形の取り組みをしていかないと、なかなか人を集めることは大変です。改めてそのことを痛感しまして、新しいなんとか今年はその取り組みをモデル的にやってみたいと思っております。以上です

#### (コーディネーター・藤井)

ありがとうございました。定年になってからでは遅いと、第二の人生を迎える前に、ということでこの労働者協同組合、協同労働という働き方に現役時代から触れておくことの大切さというのをすごく感じましたので、この周知フォーラムも、そういった意味ではすごく重要な役割を担うのかなって言う風に感じました。お三方からお話をいただきました。さらにコメントーターの小島さんからご質問を。

#### (コメントーター・小島)

コメントではなくてご質問をさせていただいてよろしいでしょうか？まずキクフトさんにご質問させていただきたいのですが、皆さんで働くお仕事と個人でおやりになる仕事とたぶん2つのお仕事をもっておられていると思うのですが、将来的には皆さんそれぞれどのようにキャリアをお考えになられていらっしゃるのでしょうか。たぶん人それぞれ異なるのかなと思いますが。

**(キフクト・佐藤)**

本当に人それぞれ違って、私はもうこれを本業というか一本にするのが今の時代にいいことかどうかはちょっと分からないのですが、これをメインにやっていきたいと思っていますし、島田さんはまだ二足の草鞋の方向もあるし、今フルタイムで勤めているメンバーは今の仕事をものすごく面白いと言う風に言っているのです、それでもこのキフクトとでやる仕事もまた楽しいっていう形でやっているのです、どういう働き方をするのかも選べる状態にしたいし、できれば本業にしたいと思う人が本業に出来るくらいの事業に育てていきたいというのがあります。

**(コメンテーター・小島)**

佐藤さんご自身は本業にしていきたいという感じですか。キフクトさんの中ではどちらが多いのですか。

**(コメンテーター・佐藤)**

本業にしたいというのはわたしだけ。みんな気楽に儲かっても儲かんなくてもいいかって気持ちかもしれない。ぼくはなんとか儲けなきゃ、っていう必死でやっているというところですよ。

**(キフクト・島田)**

ニッチな部分が多いので1本に絞れないっていうのもあると思いますけど。本当にそういう人が入って、ここでやりたいっていう人が入ってくれるのはすごい力になると思うので。一本でやっていく人もこの中には必要だと思います。みんなが二足の草鞋だと進んでいかないこともあるので、けっこう佐藤さんが今頑張ってくれているところがあります。

**(コメンテーター・小島)**

はい、ありがとうございます。あと、北澤さんにちょっとご質問をさせていただきます。多分、定年前である50~60代くらいの方で今日のフォーラムに参加されている方の中には、いやそうはいつでもやはり一歩踏み出すのって結構大変なんですよ、という風に思っている方がたくさんいると思いますが、何かそういう方々に向けてアドバイスはありますか。

**(上田・北澤)**

難しい質問でして、やっぱり勇気をだすことですね。先ほど先生のお話を聞きながら、今もう待たなしの社会になっているんじゃないかな。誰かがやってくれるだろうというような待ちの体制では何も変わって来ないと思います。やっぱり何かをしようじゃなくて、

自分は何をするのかというところの考え方に非常に大事な時期に来ているのではないか？  
今をそのままに放ってしまうと、もう取返しのつかない社会になってしまうのだから持続  
可能な社会づくりというのはまさしく行動する行動につなげられるかということだとい  
うところだと思うのですね。ちょっと上手くいえませんが、そんな風に思っています。

**(コメンテーター・小島)**

ありがとうございます。勇気を絞るということと、まず自分が何をするかっていうことを  
常に考えるということが重要ですよ。

はい、ありがとうございます。それでは松下さんにちょっとご質問させていただけたらと思  
いますが、やはり松下さんもこういう活動をしようと思う「飛び」の部分があると思うの  
ですが、そういった行動を起こすためには、どうしたらよろしいですか。

**(フラヌイSCORE・松下)**

難しい質問ですね。行動を起こすために、やっぱりそれは、誰かの問題を放っておけない  
な、っていう自分の性分のところもあるかもしれないのですが、また私自身も困った時は、  
結構助けを求めてしまう、周りに。助けを求めるので、誰かが困っていたら自分も助けた  
いって思いがある。そうした中でそんな感じの答えしか出来ないんですけど。

**(コメンテーター・小島)**

誰かのために役に立ちたいっていう思いが、こういう第一歩につながるってことですかね、  
活動をやろうという。

**(フラヌイSCORE・松下)**

そうですね、はい。

**(コメンテーター・小島)**

はい、ありがとうございます。

**(フラヌイSCORE・松下)**

誰かのために、って思うことは、やっぱり、誰かが困っていてそれを困ったままだと自分  
も何か気になってしまうし、また、私の方が助けることが出来なくても、私が知って  
いる誰かが助けられるかもしれないって思うと、本当に余計なお節介の部分があるのかも  
しれないけれど、ちょっと誰かに聞いてみるとか、何とかそんなことしながら。そうで  
すね、けっこうお節介お婆さんのところがあるのかもしれないですね。そんな気持ちから結  
構行動しちゃっているところはあるかもしれないです。

**(コメンテーター・小島)**

ありがとうございます。私も本当に労働者協同組合の議論をさせていただく時に、まさにお節介ビジネスっていうものが労働者協同組合になるんじゃないかって議論させていただいてこともあって、自分が誰かのために何か役に立ちたいという思いと、自分が何ができるかっていう思い、この2つが両輪になることが労働者協同組合の設立や参画につながるのではないかと思います。コーディネーターの藤井さんにお返しします。

**(コーディネーター・藤井)**

台本にない質問にお答えいただきありがとうございました。あともう少し時間があるんでうけれども、これまで協同労働という働き方を自分達でこう実践してきた。そういう労働者協同組合を選択してきた理由、そして思い、これからどういう風に進めていきたいかっていうお話をいただいたんですけれども、三者の方が三者それぞれ他の取り組みも聞いたうえで今日のパネルディスカッションの感想、聞いていらっしゃる大勢の方に向けて何か伝えたい思いがあれば、ぜひ一言ずつあのキクトさんはお二人に、四人の方にあの感想をお伺いしたいと思います。

**(フラヌイSCORE・松下)**

今日は、自分以外のこの二つの団体の話も聞いていて、とても勉強になりました。やっぱりいままで自分の経験してきたことを、またシニアになっても生かしていきたいとか、海賊的な働きかたっていく表現だったりとか、なんかいろいろあるなって、その捉え方がいろいろあるなっていうことを感じさせてもらいました。私はまだまだ子どもを育てている親という目線で考えてしまうことが多くて、働くことの良さとか、大変さっていうのを今回のディスカッションの中で自分自身も勉強になりました。これから私たちは実際に事業として活動していくので、いろいろと相談に乗っていただきたいなと思った次第です。今日はありがとうございました。

**(コーディネーター・藤井)**

ではキクトの佐藤さんから、よろしく願いいたします。

**(キクト・佐藤)**

株式会社を以前に作ったことがあるんですが、そうすると作った途端に周囲は敵とまでは言わないまでも、競争相手になるんです。労働者協同組合を作ると不思議なことに急に仲間が、味方が、メンバーだけじゃなくて、バーっと出来るというのは実感としてあるので、今もし迷っている方、作ろうかなって思っている方がいたら、そんなに元手かけなければリスクもないので、とりあえず作ってみれば良いと思います。いろんな人が助けてくれて、本当につくる前はまさかこんなところでしゃべるとは、北澤さんもおっしゃっていましたが、そんな機会がくるなんて夢にも思っていなかったもので、そういうことが起こりるので人生が変わるので、ぜひ。ちょっと怪しい感じになりましたが。

**(コーディネーター・藤井)**

(次) おねがいします。

**(キフト・島田)**

私は皆さんが発起人というか、中心になって本当に立ち上げた方たちなんですけど、私は誘われて入った側ではあるんで、ちょっと皆さん本当にすごいなって思うんですけど、こういう参加の仕方できますし、それで誘われて入ってもやっぱり立ち上げていくメンバーに一人一人がみんなに関わっていくので、社長のいうことを聞いてっていうやり方ではないので、すごく誘われた側の楽しくやらせていただいているので、本当にいろんな形で関わる人が増えていくといいなと思います。

**(コーディネーター・藤井)**

ありがとうございました。北澤さん、お願いいたします。

**(上田・北澤)**

先日あるお蕎麦屋さんによった時に、きれいな字の額が飾ってありまして、そこにいい言葉が書いてありましたので少し紹介させてください。「本気ですれば、大抵のことができる。本気ですればなんでも面白い。本気でしていると、だれかが助けてくれる」と書いてあったんです。本当にこの言葉いいなと思いつつ、本気でやりたいと思っています。多分私たち上田の地域の課題と多分全国の色んな市の課題って言うのは、ほとんど共通だと思うんですね。共通の中で、パートナーとして地域包括支援センターっていうのは必ず置かれております。その皆さんとの連携で、地域の困りごと解決が仕事して出来る仕組みができます。

これをぜひ全国の面白そうだな、よしやってみようかなと思っている方はぜひ行動に起こしていただきたい。このことが全国的に広まっていくことによって、新しい働き方の社会が広がっていくのではないかなという風に改めて思いました。以上です。

**(コーディネーター・藤井)**

ありがとうございました。四名の方から今日の感想をいただきました。その感想をうけてコメンテーターの小島さんの方からコメントをいただきたいと思います。

**(コメンテーター・小島)**

パネリストの皆さまいろいろとお話ありがとうございました。本当にこの労働者協同組合っていうのは、多様な働き方の選択肢の一つになるんだろうなというのを改めて感じさせていただきました。例えばキフトさんですと個人事業主ということで、メンバーのほとんどの方がフリーランスの方でいらっしゃるというなかで、そういった方で組成される新

しい労働者協同組合という形なんだろうなという風に感じさせていただきました。またその働き方も一本でやっていこうと思われる佐藤さん、配分してやっていこうと思われる島田さんといったその中でもさらに多様な働き方が実現していかれようとするという点も、すごく面白いなと思って伺いさせていただきました。あと、北澤様の定年前から、キャリアのことを考えていかなければというのはもう私も自分のこととして感じさせていただきました次第です。特に今日フォーラムに参加されている方の中にも、今後のキャリアをどうしていったらいいんだろうと言う風に悩んでおられる方はたくさんいらっしゃるんじゃないかと言う風に思います。特に定年後の再雇用で働いていても、多分言われたことだけの仕事をやるっていう方がたくさんいらっしゃると思いますね。ただ労働者協同組合連合であれば、仲間が集まってみんなでこういう仕事を考えて主体的に働くという働き方が可能になるかと思いますので、定年後の働き方、キャリアの一つとして、考えていくというか、自分のキャリアのオプションの一つとして知っていただくのがよろしいのではないかなと感じさせていただいた次第でございます。本当に本日はいろいろ示唆に富むお話をいただいてありがとうございました。

#### (コーディネーター・藤井)

時間がもう少しありますので、私が最後にまとめる前にちょっと小島さんとのやりとりの中で、この協同労働や労働協同組合の現場を小島さんはいろいろ今日のお三方のところにもいらっしゃる中で、今ご視聴されている方々に向けて、まず四名の方からこういう働き方を進めていくために勇気を出すっていうことであったり、色んなお言葉があったんですけども、いろんなどころを見てきて、小島さんなりにこの労働者協同組合にどう活用していくかってところを、見てきた感想やこんな取り組み方が優しい活用につながるのではないかというのが、もしあれば少し聞かせていただきたいと思います。

#### (コメンテーター・小島)

前半で少しコメントをおさせていただいたのですが、ちょっと繰り返しのになってしまうかもしれないんですが、フリーランスの方が労協で立ち上げておられるケースが非常に増えていて、一人一人が持っているスキルは全く異なっていて、本業の染み出しだけではなくて、そういった方々が集まることによって、さらに異なる新しい事業を作っていくことが非常にいい活用の仕方だなと思っています。そこで終わりということではなくて、フリーランスの方々っていうのはたぶん複数にプロジェクトを常にやっておられるプロジェクトの型の働き方をしている方々多いので、そういった経験をまたご自身のご自身のキャリアにもまた生かしていく。労働者協同組合という形を立ち上げて、もちろん地域の課題も解消するし、ご自身の新たなキャリアの開拓にもつながっていくのではないかということを私のコメントとさせていただきます。

#### (コーディネーター・藤井)

最後にまとめていきたいと思います。今日はパネラーの皆さまご紹介ありがとうございました。台本にない質問もいっぱいさせていただきました。ありがとうございます。やはり、一人で働くという働き方と、仲間と一緒に働くという働き方の違いを皆さんの中で、それぞれ経験されてきたと思いますが、その仲間と働くということの中には、多様性やスキルの交換というのが、そこで行われてそれがそれぞれのやっぱり成長になったり、その成長がさらにその協同労働の中での力というのか、さらに前進する力になっていくのだということ。今日富良野のフラヌイスコレさん、それから神奈川のキクフトさん、それから長野の労協上田さんのお話から私も感じとることが出来ました。私も先ほど上田の北澤さんから、本気の話がでましたけれども、端的に言えば、労働者協同組合イコール本気なのかな、と言う風に感じました。先日、私も希望という言葉の定義がされたということを知りまして、希望の定義というのが、他の人々と共に具体的な目的をあげてみんなで行動し続けることっていう風に希望が定義されたっていう風に聞いて、これはまさしく協同労働で、労働者協同組合で仲間と一緒に力を合わせて、同じ目的や目標を持って前進していく。それを継続していくことに意義があるんだということ。労働者協同組合を選択されたという今日の三つの団体のお話とすごく繋がって、この労働者協同組合の希望、そして労働者協同組合が取り組んでいる社会や地域課題を解決していくという希望が灯ったような、私は、今日はこんな感想を受けました。今日は北海道からあの大雪の中、来ていただきまして、戻ったらもう本当に花が咲いているのではないかという松下さんの笑顔と、それからキクフトさんの佐藤さんと島田さんの自己というのもありながら、みんなで一つの事業を組み立てていく様子、それから北澤さんからは地域の中で自分の第二の人生を考えて始めたことが地域の次の世代や次の時代や将来というものを見据える取り組みに変化していく様子というものが、本当に伺い知れて私たちも頑張って地域の課題に取り組んで、どんな小さな困りごとでも、小さい、小さいスキルや経験をもった人が大勢集まれば、すごい大きなパワーのなるんだってことを、今日感じさせていただきました。本当にありがとうございました。これでパネルディスカッションを終了させていただきます。